

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「各務原市学校運営協議会規則」第7条に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和7年度 各務原市立かかみがはら支援学校 第1回学校運営協議会
- 2 日時 令和7年6月5日(木) 9時30分～11時45分
- 3 場所 各務原市立かかみがはら支援学校 小会議室1
- 4 目的 各務原市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者、地域住民等の学校運営への参画並びに保護者、地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校と保護者、地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善及び生徒の健全育成に取り組む。
- 5 参加者 < 学校運営協議会委員 > (順不同・敬称略)

| | |
|---------------------------|-----------|
| 名古屋短期大学保育科 准教授 | 川上 知幸 |
| コープぎふ組織改革推進部 障がい者雇用担当 | 近藤 眞司 |
| 就労継続支援A型事業所HOAO サービス管理責任者 | 足立 智江見 |
| パッソ各務原校 マネージャー | 上野 陽子 |
| うぬま第二幼稚園 園長 | 渡辺 克己(欠席) |
| 各務原市社会福祉事業団福祉の里 所長 | 清水 恵子 |
| かかみがはら支援学校 PTA会長 | 岩間 サーディア |

< 学校関係者 >

| | |
|--------|--------|
| 校長 | 高井 深雪 |
| 教頭 | 浅野 普敏 |
| 教頭 | 西藤 薫 |
| 小学部主事 | 熊崎 のぞみ |
| 中学部主事 | 辻角 真弓 |
| 高等部主事 | 則竹 裕子 |
| 教務主任 | 天木 智子 |
| 進路指導主事 | 三橋 智子 |

6 会議の概要

【校長挨拶】

○学校運営協議会について

○委員の委嘱

【会長・副会長の選出】 →会長 川上様、副会長 近藤様を委員の互選で選出した。

(1) 会長挨拶

(2) 日程説明

(3) 授業参観・施設見学

(4) 議題

①経営方針説明（校長）

- 教育目標、学校経営方針、教育の重点、学校運営機構、教育課程
→全会一致で承認された。

②学校概要説明（教頭、進路指導主事）

- 教育活動について
- 進路指導について

④作業学習の新製品価格について（高等部主事）

- 適正な価格であると承認された。

(5) 意見交換

意見1：・準備段階からやってきたよい面が凝縮されている。見学して子どもの様子を見て感じた。

- ・「特別」という言葉をとった学校。インクルーシブがここにあることを地域に発信していけるとよい。職員間にも開かれているのを感じる。この学校方針に共鳴できる。
- ・小中高一貫した教育、それぞれの部が互いを見据えている。切れ目のない支援がある。連動しながら子どもたちが成長できる場所になっている。

意見2：・PTAの入会について、再度入会の案内を丁寧にしたところ、100名ほどの入会となった。まだまだ、「PTAは大変」というイメージがある。今年度は交流、座談会を検討している。PTAを重く感じている保護者が学校とどう対話するのか。情報が広がり、子どもたちの未来につながる一年になるとよい。「学校を開く」（学校経営の方針）の「開かれた」が、まずは保護者も開くことで気持ちも柔らかくなるとよい。学校の先生が安心できる存在であることを知ってほしい。

意見3：・高等部の生徒が小学部の児童に本の読み聞かせを行っている様子の説明を聞き、今までとは違う環境でできることの素晴らしさを感じた。様々な障がい種々の特性に基づいて自然に助け合う姿がある。年齢も幅広く、これまでとの違いをどう生かしていくのか、可能性を感じる。部の括りだけではなく、縦の繋がりを広げてほしい。

- ・施設がよい。校内で様々な活動ができるのがよい。
- ・障がいのある者は仕事ができないと思っている人がいる。支援する会社側にも課題がある。障がいのある人の力をどう引き出すか。「地域に開く」という意味で、会社の人にもこの学校を開いてほしい。

- 意見4：・旧校舎が自然に囲まれたよさがあったが、新しい学校も最先端のよさがある。
ぜひ、事業所の職員にも公開してほしい。
- ・地域で生活していくことを考えると、自分で自立していくことが必要になる。
この学校で体感できることが素晴らしい。
 - ・安心して通える場、支える人が安心である必要がある。就職になると人を信頼できない場合がある。小さいころから「相談できる、人を頼る」ことを伝えていけるとその子の幅が広がる。
- 意見5：・開校前の空間を見ていたが、今回中身が入り、人が入り、動いているのを感じる。
- ・以前からのよさ、人を大切にすることが引き継がれている。
 - ・家庭でもない年齢の幅があり、特別な支援をする場ではなく、もう一つの社会であり、このまま繋がっていくように感じる。
- 意見6：・感動した。ワクワクを感じる。「ここに来たい」と思える場所ができた。ここで働く人が様々な工夫を凝らすことでより魅力的な場所になる。
- ・「開く」という考え方は大切である。インクルーシブ、地域共生という言葉は理想であるが、実現するためにどれほどの労力、お金がかかるかということは理解されていない。地域の技術と思いがある人に支えられている。ここに集まる人だけが担う地域共生にならないように、足りていない部分を積極的に発信する必要がある。
 - ・人材の問題もある。大学は120人の就職のうち、福祉系は6人であった。現場で働くことの魅力を大学の間でも発信していきたい。教育の段階から学生にこうした場所に触れさせたい。インクルーシブの世界をつくるのは、未来の子どもたちである。それを担う人達に是非学校の様子を見せたい。

(6) 会長挨拶

7 会議のまとめ

- ・学校経営方針について承認が得られた。
- ・作業製品価格について、全委員より適正価格であると承認を得られた。
- ・学校概要の説明や授業参観をとおして、委員の皆様からご意見を多数いただいた。
- ・ご意見を十分に踏まえて、今年度の教育活動を行っていく。